

## スマホ育児、ワンオペ育児など現代の子育てとは ～今どきの子育ての楽しさと難しさ～ 後編



今回は、現代の子育ての特徴や対策について、ご紹介する後半部分です。現代と昔の子育てを比べて、良くなったところはどんなことでしょうか？ また、お話をお聞きした田中さんご自身の子育ての考え方も伺いました。

教えていただきました

田中 恒彦さん

臨床心理士  
新潟大学 教育学部  
教育科学講座 准教授  
現在、5歳の娘を育児中



### 現代と昔の子育ての違い

**司会** 田中さんがお考えになる、今と昔の子育ての違いはどんなところですか。

**田中** 前回は触れましたが、昔の良さというのは、「子どもを見る人たちがいて、助け手がたくさんあった」ということです。しかし、それはムラ社会としての側面があり、プライバシーが十分守られていない環境であったとも思います。

かつては、若い人たちは土足でプライバシーに踏み込まれる事を耐えざるを得なかった時代がありました。それが、地域との関係が変わっていき、個人の線引きができるようになった点ではとても良かったのです。

しかし、逆に助け手が減ってきたという側面があります。これは世代間の問題でもありますから、今後自分と他人の区別がきちんとで

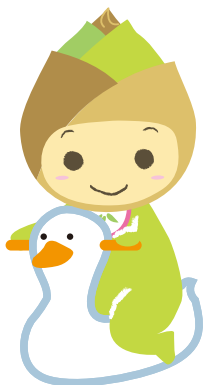
きる人たちが増えると、地域との関係の作り方が変わってくると思います。

**司会** 現代の育児の良い点としてはどんなところが挙げられますか。

**田中** 今の育児で良い点は、昔に比べると男性の育児参加が増えてきているところだと思います。ただ、男性にとって育児を学ぶ機会が圧倒的に少なすぎます。だから、男性が育児に参加すると困惑するママさんが出てくる。本来は、そこで参加してくればとてもありがたいはずなのに、かえって手間だと言われて、いわれない対立が生まれるわけです。

**司会** パパさんが育児に参加するにあたって、どのようにしたらうまく参加できるとお考えですか。

**田中** 具体的には父親教育、父親教室のようなものや、父親の育児悩み相談のようなものがあるといいと思います。パパさんとママさんの関係がいいことは、そのまま子どものメンタルヘルスに良い影響を与えますから、そこも踏まえて、パパさんの対応力を高めていくということは重要な課題だと思います。



(現代と昔の子育ての違い 続き)

**司会** 今は、パパさんが一人で子どもを見ていることも珍しくなくなってきていますよね。

**田中** 子どもの面倒を男の人が見ることについて、環境が整ってきて、周囲の目が比較的緩くなってきた今だからこそ、男性の育児参加を支援し継続させていくということが大事です。パパさんが育児に参加する環境を整えるという意味でも、パパさんの力を十二分に活用できるように、パパさんの能力を開発していく必要があるでしょうし、ママさん自身のものの見方、考え方を変えていく必要もあるだろうと思います。

**司会** ママさんはどのように考えたら良いでしょうか。

**田中** ママさんは「パパさんを支援する」というと、「マ

マは当たり前のように子育てを求められ、支援なんてされていない」という考えが浮かんでくると思います。実はそれが夫婦間の対立を生み出す罫です。パパさんが育児に参加できるようになることは「親としての役目を果たす」というのはもちろんですが、それは母親への支援にもつながります。「ママさんは支援をしなくていい」と言っているわけではなく、ママさんが楽になるためにもパパさんの力をもっと使われるようになってほしいのです。

## 子育ては、「失敗した」と思ってもリカバリーできる

**司会** 田中さんが現在子育てをされている中で、子育てに対しての考え方もお聞かせいただけますか。

**田中** 私が子育てで考えているポイントは3つあります。1つ目は、失敗しない親はいないということです。「失敗したらだめ」ではなく、「失敗はしてしまうものだ」ということを意識しています。

2つ目は、失敗してもリカバリー(挽回)ができること。リカバリーをどれだけ頑張るかということを考えています。

3つ目は、できるだけ私も子どもも気持ちよく接する時間をつくりたい。つまり、しかる時間ではなくて褒める時間を増やしたいということ意識しています。

**司会** どれも、とても前向きなものばかりですね。

**田中** 子育ての悩みをお聞きしていると、多くのママさんが悩まれているのが、「子どもがうまく育たなかったらどうしよう」とか、「失敗してし



まったらどうしよう」という話をされますが、普段よくあるような失敗の1つや2つが、子どものその後に重大な問題として残るということは考えにくいです。

それよりも、親が「失敗してはいけない」というプレッシャーを持つことによって継続的にピリピリした時間が続くことの方が、子どもにとってはデメリットです。あるいは子どもが見ている前で、ママさんとパパさんが言い争いを継続的にすることの方が辛いと思います。

**司会** 確かに、ずっとイライラするよりも、気持ちを切り替えて前を向いた方がいいですね。

**田中** 失敗をしても、自分がその失敗を子どもに対して「パパ失敗しちゃった」とか「ママ失敗しちゃった、ごめんね」と言えることの方が大切です。失敗の中から我々が学ぶことの方が大切だと思うのです。その方が、自分にも子どもにも社会にも寛容になれると思います。

## 読者の方にメッセージを

**司会** 最後に、「たっち」の読者の方にメッセージやアドバイスをいただけますか。

**田中** 失敗というのは、「自分が失敗と決めつけることによって失敗になる」という部分があります。失敗から、「私も子どもたちも学んだ」、「見つけることができた」と考えることができれば、それは失敗ではなく新たな課題の発見になります。ですから、失敗をするという不安を抱えるよりは、やってみて起こったことをきちんと再評価するようにして、見返すようにすればいいと思います。

**司会** 自分のした事を振り返るのが大切なんですね。

**田中** 「子どもに習い事をさせたのにうまくいかなかった」とか、あるいは「何かをさせなかったことによって子どもに悪影響を与えたのではないか」とか、そういう先の事を考えて悩むよりは、「今この時間の中で、自分に何ができるか」とか、やったことをきちんと振り返って次、どう対応できるか、どう考えることができるかに軸足を置いて生活できるといいと思います。過去や未来を生きるのではなく、今を生きることが、子育てをしていく上で大切ななと思います。

特に、0歳から2歳児さんは、一番発達して変化がとても大きい時期です。その子どもの変化をぜひ観察して、1つ1つ、その子にとっての初めての体験を共有して、一緒に喜んで、一緒に泣いて悲しむというのができれば、今しかできない貴重な体験を子どもとともに送ることが出来るのではないのでしょうか。

(後半終了)



おわり